

1月21日駅北ビル起工式

『見切り発車は将来に禍根を残す』

日本共産党 多賀城市議団長 藤原ますみ氏が発表。

日本共産党多賀城市議団
藤原 益栄 団長の談話

一、21日10時30分より、多賀城駅北地区の起工式が行われました。全体として多賀城駅周辺が本市の賑わいの拠点となっていくことについては私も日本共産党多賀城市議

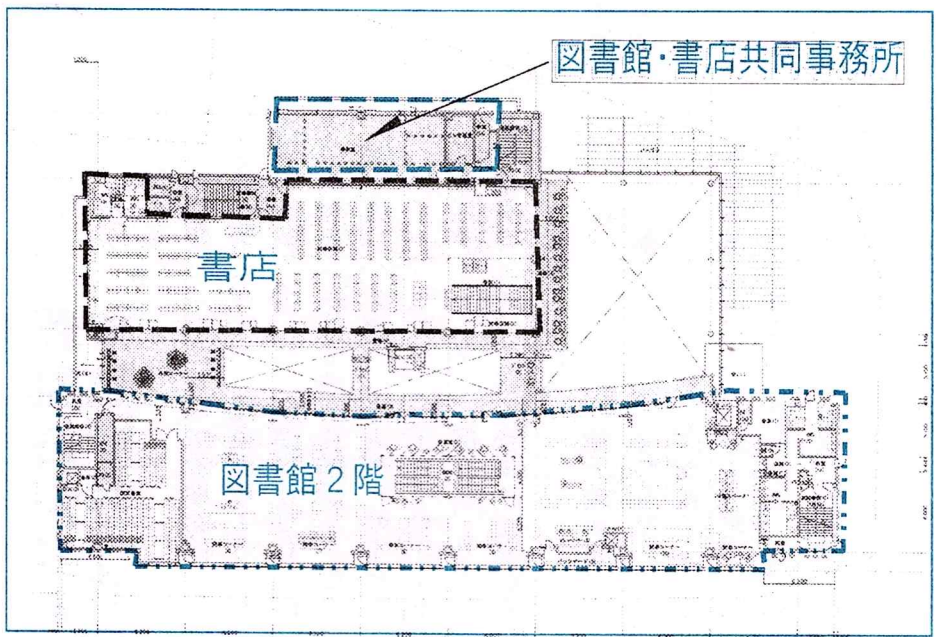
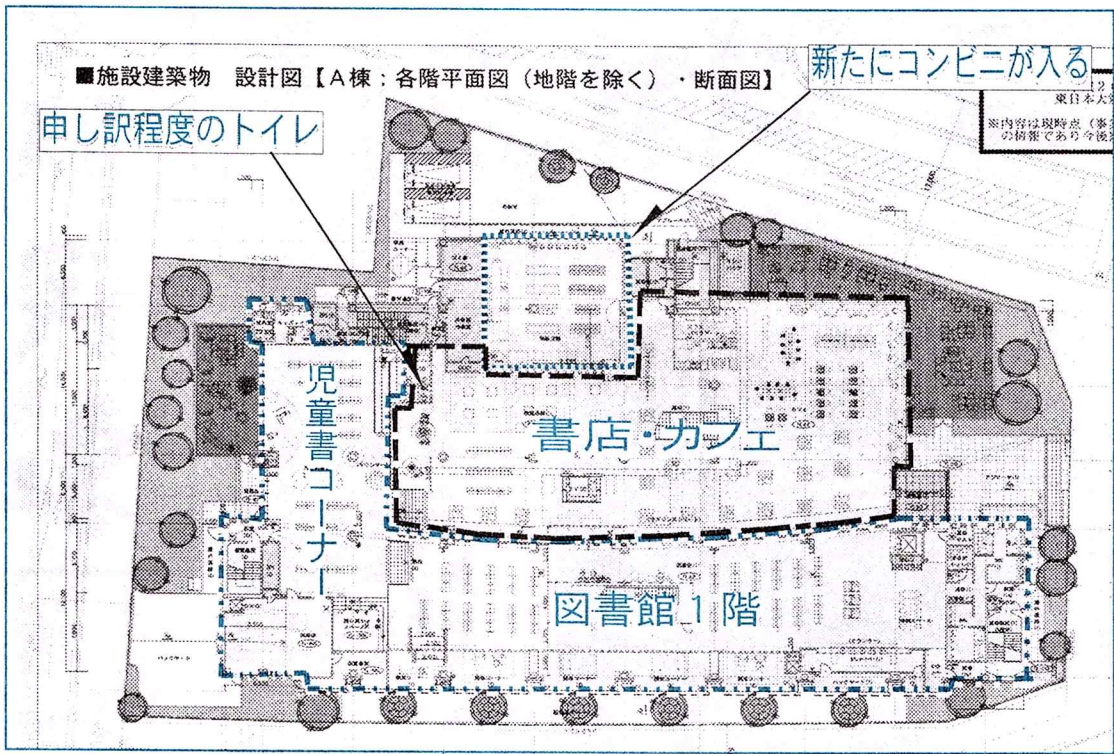
団としても期待をしています。一、問題にしてきた図書館については、駅前への移転には賛意を表明しつつ、同施設が多くの市民が半世紀近くにわたり利用される施設であることとをふまえ、「最も混雑するであろう二階の商業施設のトイレが男女各2基しかない」

「1500㎡の床面積の現図書館の事務室・作業室が108㎡なのに、3450㎡の新しい図書館の事務室・作業室は50㎡にも満たない」「図書館と離れた商業施設の北側にだけ図書館と商業施設の共同事務所を設けるのか」「滞在型の施設をめざすなどと言

ながら学費が足りない」等様々な問題を提起してきました。しかしこれらの提起は、満足に検討されることなくこのほど着工の運びとなりました。多くの問題を抱えつつの見切り発車に、開館後の図書館運営に大きな支障が発生することを心から懸念をしています。

一、図書館の所管官庁は市教育委員会でしたが、「商業施設との同居なので」と終始まじめな検討は行われませんでした。たとえば、市教委として最終図面を確認したのは、11月19日でした。また、商業施設の北側に図書館との共同事務所を設けることは最終図面

賀原氏で記者会見をおこない、議会では満足の答弁をせず、批判者はツイッター上で「特殊市民」「ゴミフリ以下」などと攻撃を繰り返しました。菊地市長の場合、これは極端な手法はとりませんでした。が、市長とCCCとの合意内容に沿うよう市教委に求めたことは経過から明らかです。こうした手法は、最近建設し



図書館らしい図書館へ、今後とも全力！

一、私ども日本共産党市議団としては、限られた条件下にはありますが、図書館を社会教育施設に相応しい施設にしていくために、今後とも最善の努力を払ってゆきたいと考えています。

一、私ども日本共産党市議団としては、限られた条件下にはありますが、図書館を社会教育施設に相応しい施設にしていくために、今後とも最善の努力を払ってゆきたいと考えています。

面で初めて明らかにされましたが、「どの段階で説明を受けたのか。どういう検討をしたのか」の私の質問に答えられませんでした。これは事実上、設計から運営までCCCに丸投げされ、市図書館は「CCC図書館部」ともいべき施設になろうとしています。市教委は商業施設と同居するからこそこれらの問題を真剣に検討すべきでした。市教委の責任放棄は未永く問われ続けることになると思います。

一、私ども日本共産党市議団としては、限られた条件下にはありますが、図書館を社会教育施設に相応しい施設にしていくために、今後とも最善の努力を払ってゆきたいと考えています。